

独裁を拒む

「自由の前哨地」

米外交政策研究所の地政学者、ロバート・カプラン氏は米紙で、「中国による香港弾圧と南シナ海への侵略、その次に来るのは台湾である」と警戒感を示す。台湾は米冷戦中の西ベルリンのように、全体主義の中国本土に対抗する「自由の前哨地」であり、米国には断固として守るべき道徳

湯浅博の世界読解

的責任があると強調した。冷戦下のベルリン西側地域は、ソ連占領地域に離れ小島のように存在し、生活必需品のすべてを鉄道輸送に頼っていた。ソ連が1948年6月にベルリン封鎖に踏み切ると、市民らはとたんに飢えに直面することになる。

当時のベルリン市長の息子でタイムラー・ベント社の元会長、エツァルト・ロイター氏は、かつて筆者に「ヒトラー独裁の悪夢からさめた人々が窮乏に耐え

ても、再びスターリン独裁に甘んじることが拒絶した」と語った。その決意をみたトルーマン米政権は、輸送機の撃墜を覚悟して西ベルリン市民235万人に對する大規模な空輸作戦を断行した。

米国による相次ぐ対中警告

7月4日 「ロナルド・レーガン」「ニミッツ」の2つの空母打撃群が南シナ海で演習開始

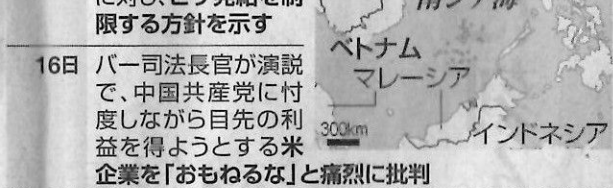
13日 ボンベオ国防務長官が声明で、中国による南シナ海ほぼ全域での主権の主張は「違法」と非難

14日 トランプ大統領が香港の自治抑圧に関与した中国当局者や機関を対象に制裁措置を定めた香港自治法案に署名

15日 ボンベオ国防務長官が華為技術(ファーウェイ)など中国ハイテク企業の特定の従業員に対し、ビザ発給を制限する方針を示す

16日 パー司法長官が演説で、中国共産党に付度しながら目先の利益を得ようとする米企業を「おもねるな」と痛烈に批判

17日 2つの空母打撃群が南シナ海で2度目の軍事演習



南シナ海を航行する空母「ロナルド・レーガン」と「ニミッツ」(後方)＝6H(AP)



南シナ海を航行する空母「ロナルド・レーガン」と「ニミッツ」(後方)＝6H(AP)

「競争相手」から「戦略的脅威」へ  
台湾から南シナ海に目を転じれば、トランプ米政権は中国をこれまでの「戦略的競争相手」という定義から、ギアを一段上げて「戦略的脅威」とみなし、動きを加速させている。特にボンペオ米国防務長官の13日の声明は、まるで「米国をなめるな」と喚びを切っているかのよう聞こえる。

南シナ海を独り占めしようとする中国の主張は「完全に違法である」という判断を示し、「中国が南シナ海を自らの海洋帝国として扱おうとする世界は許さない」との決意を伝えている。

中国がトランプ大統領その人の統治能力を軽く見たとしても、米軍の意思と能力を見くらべられない方がよい。米中対立がここまでくると、衝突は偶発的に起こるかも知れず、時には中国の「脆弱性」を突くこともありうる。

西太平洋の支配者は誰か

だ。周知の原油輸入は、ロシアや中央アジアからのパイプラインに振り替えても、まだ5割以上を海上輸送に頼るから、この海域を封じられると経済が立ち行かない。

米海軍の2つの空母打撃群による最近の軍事演習は、誰が海洋の支配者であるかを示していた。米海軍は4日から数日間、「ロナルド・レーガン」と「ニミッツ」の2つの空母打撃群と軍艦4隻を南シナ海に派遣し、近年では最大級の演習を行った。さらに、ボンペオ声明を受けた17日にも、再び南シナ海で異例の軍事演習を決定した。

米海軍の2つの空母打撃群による最近の軍事演習は、誰が海洋の支配者であるかを示していた。米海軍は4日から数日間、「ロナルド・レーガン」と「ニミッツ」の2つの空母打撃群と軍艦4隻を南シナ海に派遣し、近年では最大級の演習を行った。さらに、ボンペオ声明を受けた17日にも、再び南シナ海で異例の軍事演習を決定した。

情報能力強化と日米の新連携を

北朝鮮は昨年5月以降、この1年で30回もミサイル発射を日本海方向に向けて行ってきた。この脅威は今後も続くと思わざるを得ない。日本は飛翔してくるミサイルを弾道の中間段階で撃破するイージスシステムと終末段階で撃破するPAC-3の多層防衛システムで対応している。

正論



拓殖大学総長 森本 敏

「手負いの龍が持つ攻撃性」  
過去のパンデミック危機  
「手負いの龍が持つ攻撃性」  
過去のパンデミック危機

イージスシステムはイージス艦に搭載されるものと地上配備のイージス・アショアがある。イージス艦は300人近い乗員も必要で補給や乗員の交代などもあり、多数の艦艇を必要とする。

行い、攻撃によって得られる利益に見合わないほどの甚大な損害を与えることのできる十分な能力と明確な意図を相手に認識させ、攻撃を思いとこもらせることである。抑止と対処の能力を発揮させるためには、相手側に関する詳細な情報が必要となる。

反撃力のオフショア  
このような諸条件下で可能となる反撃力行使のオフショアとして、①相手側のミサイル発射の上昇段階(ブーストフェーズ)において、ミサイルがわが国の領域に

しかし、イージス・アショアのブースターを地元で説明したように演習場に落下させるといふ保証ができないことが判明し、これを是正するためにはシステムのソフト、ハードの改修が必要との報告

わが国を守る抑止・対処能力  
そのためには高度な情報収集能力、サイバー・電子戦能力、宇宙衛星や航空機・UAV(無人航空機)及び、各種の早期警戒システム

「もりもと さとし」  
「もりもと さとし」